

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本学園で学ぶ生徒が、より良い人間関係と充実した教育環境のもとで、その人格・個性が尊重され、学習や行事・活動を通して確かな学力と社会性を身につけ、豊かな人間性を育み、やがて社会の中で活躍し未来を切り拓いていく力を培う教育を実践する。

- 〔1〕 個性を伸ばし自らの成長に向けて努力する人を育てる。
- 〔2〕 自主的に何事にも積極的に取り組む人を育てる。
- 〔3〕 実践を通して知識・技能を一層深く学ぶ人を育てる。
- 〔4〕 礼儀を身につけより良い人間関係を築こうとする心豊かな人を育てる。

2 中期的目標

【1】建学の精神と教育理念にもとづく学校経営計画及び教育計画を策定し実践する。

- (1) あらゆる教育計画・活動に本校の教育理念・方針の一層の浸透を図る。
ア 学年・校務分掌等の教育計画を改善し、理念・方針を浸透させる。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.2とする。
- (2) 教育計画の実践に向け教職員の資質向上を図り学校運営体制を改善・整備する。
ア 教職員の資質・能力の向上を図るために研修内容の充実を図る。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.0とする。
イ 組織の連携及び会議の機能を強化し、課題に対してチームで対応する。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.0とする。
- (3) 総合学園としての教育環境を有効に活用した学内連携教育を実施する。
ア 総合学園としての教育環境を活用し、高大・高短等の連携教育を実施する。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.0とする。

【2】18歳の高校生に求められる学力及び態度・諸能力の基盤を養成する。

- (1) 学習指導において、主体的・協働的な学びを実践する。
ア 基礎的知識の習得及び思考力・判断力・表現力の養成のために授業改善を行う。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.0とする。
イ 対話力や課題発見・解決力等を養うための主体的・協働的な授業を行う。 ※平成30年度教職員自己評価点を3.8とする。
- (2) 生徒指導において、集団・社会に貢献できる態度・実行力を身につける。
ア すべての教育活動を通して規律ある生活態度や礼儀・マナーを身につける。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.0とする。
イ 活動・行事等を通して協調性・責任感・行動力などの社会性を身につける。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.0とする。
- (3) 部活動を通して自らの心身を鍛え社会性を獲得する。
ア 技能を磨き目標に向けて努力し続ける中で心身を鍛える。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.3とする。
イ 仲間と共に目標の実現に向けて活動する中で社会性を身につける。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.1とする。
- (4) あらゆる教育活動において、良き市民、社会形成者としての態度・能力の基盤を養う。
ア 民主主義社会を担う主権者としての自覚を促す教育を実施する。 ※平成30年度教職員自己評価点を3.8とする。
イ 将来の社会を担う健全な市民となれるよう市民性を育む教育を実施する。 ※平成30年度教職員自己評価点を3.8とする。
- (5) 国際交流を推進し多様な文化を理解し共生できる国際的資質を育む。
ア 短期・長期の留学派遣及び海外から研修生・留学生の受入れを実施する。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.0とする。
イ 英語科およびあらゆる教育活動を通して国際理解教育を推進する。 ※平成30年度教職員自己評価点を3.8とする。

【3】人としての在り方生き方を考え、他者と共により良く生きていくための人権意識を養う。

- (1) 自己及び他者を尊重し共により良く生きようとする態度を養う。
ア 人権学習を実施し人権問題への理解と解決に向けた態度を身につける。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.0とする。
イ 学級生活や活動を通して仲間と共に調和して生活しようとする態度を養う。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.0とする。
- (2) 生徒が抱えている課題に対して、そのニーズに応じたきめ細かい相談・支援を行う。
ア 学習・生活・心身等の課題を抱える生徒に丁寧に対応し支援を行う。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.2とする。
イ 生徒のニーズを把握し、教職員が連携して適切な特別支援教育を実施する。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.0とする。

【4】進路目標の実現に向けて未来を切り拓く力を養うキャリア教育を実施する。

- (1) 自分を見つめ、未来に目標を持ち、それを実現させるための能力を養う。
ア 自分の興味・関心を知り進路目標を考える学習を実施する。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.2とする。
イ 上級学校や職業に対する関心・意欲を高める体験的学習を実施する。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.0とする。
- (2) 生徒の希望・目標を実現させることができるよう進路相談・支援を行う。
ア 進路選択に必要な情報を提供し、目標設定や実現に向けた相談・助言を行う。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.2とする。
イ 放課後や長期休業期間を含む進路指導体制を整備し講習等を実施する。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.2とする。

【5】安心・安全な社会を築くための態度と行動力を養う。

- (1) 防災・減災に向けた防災教育・訓練を実施する。
ア 防災・減災に向けた行動が取れるよう状況に応じた訓練を実施する。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.2とする。
イ 自然災害に対する科学的理解を深め、防災意識を高める。 ※平成30年度教職員自己評価点を4.0とする。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 3 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・評価項目： 教育活動全般及び学校に対する全体的評価を行った。</p> <p>・評価方法： 各項目について、5段階評価で行った。 5：その通りである 4：どちらかといえばその通りである 3：どちらともいえない 2：どちらかといえば違う 1：まったく違う</p> <p>【1】 生徒用アンケートの分析</p> <p>1. 全学年の各項目の評価を分析</p> <p>① 評価が高い項目： 7. クラブ・特設科が活発 3.9, 14. 文化祭・体育会など行事が活発 3.8 16. 防災学習や訓練を実施 3.8</p> <p>◇ クラブ活動や行事が活発で明るく活気のある学校、安全・防災に配慮している学校と捉えている。</p> <p>② 評価が低い項目： 2. 授業は落ち着いて分かりやすい 3.2, 4. 自主的なグループ学習の実施 3.4 8. 主権者教育の実施 3.1 9. いじめ防止対策の実施 3.3 10. 人権学習の実施 3.4 11. 生徒一人ひとりに丁寧な対応と支援 3.4 21. 学校情報の連絡 3.4 23. 先生と生徒の信頼関係 3.4 24. 先生と相談しやすい 3.4</p> <p>◇ 授業は分りやすく集中して取り組めるよう、また、活動的な授業の実施をめざして努力する必要がある。 ◇ 日常の授業や相談を通して、教員と生徒との信頼関係が深まるよう丁寧な指導を実施する必要がある。 ◇ いじめ防止対策や人権教育、主権者教育などにも積極的に取り組む必要がある。</p> <p>2. 高校としてどの項目を重点課題として改善するか。 学習・進路・部活動・友人関係など、あらゆる場面で生徒一人ひとりを大切に教育を実施しなければならない。 学力の定着・向上、進路目標とその実現へのサポート、個々の生徒の不安や課題に寄り添った指導を行っていく。</p> <p>3. 前年度との比較 全体として0.1ポイント低下している。学校の指導目標の柱である学習・生活・進路・人権に関わる項目は、評価が向上していきよう教職員は丸一となり、指導のより一層の改善・努力を行っていかねばならない。</p> <p>【2】 保護者用アンケートの分析</p> <p>1. 各項目のアンケート結果を生徒の結果と比較しつつ保護者の評価を分析する。</p> <p>① 保護者からは総合的に好意的な評価を得ているが、更に努力して評価 4.0 以上をめざさないといけない。 ② 子どもを成長させてくれるとの評価も得ているが、慢心しないですべての生徒に丁寧で熱心な指導が必要だ。</p> <p>2. 保護者がどの項目を高く、どの項目を低く評価しているか。</p> <p>① 生活指導・部活動・行事・施設・情報提供・学校全般について評価が高く、入学させて良かったとの評価である。 ② 授業・教科指導・進路指導・生徒相談・いじめ対策・人権教育等についての評価は必ずしも高くない。</p> <p>3. 保護者が高校に何を求めているかを考え、その対策を立てる。</p> <p>① 信頼できる教員、相談しやすい教員であること。 ② 充実した授業を行い、基礎学力を高めること。 ③ 規則を守り規律ある高校生活の実現を図ること。 ④ 進路指導を充実させ、進路目標を実現させること。</p> <p>【3】 アンケート分析の活用と学校改革</p> <p>高校教育の目標は自ら学び、より良い人間関係を形成し、社会に貢献しようとする人を育成することである。 その目標を実現するために、学習と生活の基礎・基本をしっかりと身につけさせ、生徒の成長を促すために、アンケート結果をふまえ、つぎの課題に取り組み、今後ともより良い学校をめざして努力していく所存です。</p> <p>① 規律ある学校生活の実現と品位のある生徒の育成 ② 充実した分かりやすい授業と学力の向上 ③ より良い人間関係を築き、豊かな人間性を育てる教育 ④ 将来の目標を見つけ出し生徒の進路目標を実現させる指導</p>	<p><学校評価委員会を開催> H29年5月20日実施</p> <p>○生活面のルールや挨拶・マナーの指導は、保護者・生徒の評価が大きくあがっており、学校として力を入れていることが良くわかる。学校内での指導が生徒の学校外での生活にまで浸透し、生徒の人生に潤いをもたらすような深い指導ができると良い。</p> <p>○クラブ活動・文化祭・体育会の高評価は、保護者・生徒の期待のあらわれである。</p> <p>○18歳選挙権についての主権者教育は少し低い評価であるが、新しい制度であり今後の課題でもある。</p> <p>○いじめ問題・人権問題・防災について等、社会に目を向ける教育が今後重要視される。</p> <p>○全体的に評価が3.0を越えていることについて、難しい問題にも積極的に取り組んでいると言える。</p> <p>○学校の満足度について、保護者は2年連続で4.0以上であるのに対して、生徒は3.5と差があり、生徒の目はきびしい。</p> <p>○創立90周年の取り組みもあり、『報恩感謝』の建学の精神は良く理解されている。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>【1】 経営計画及び教育計画 教育理念に基づく学校</p>	<p>(1) 理念・方針にもとづく教育計画の再構築</p> <p>(2) 教職員の資質向上と学校運営体制を改善・整備</p>	<p>(1) ア学年・校務分掌等の教育活動計画を改善（学年会議・分掌会議で策定）</p> <p>(2) ア教職員研修の充実化を図る（教務部を中心に企画。年2回実施）</p>	<p>(1) ア平成28年度教職員自己評価点を4.0とする。 *学年会議・分掌会議で協議・見直し・改善計画策定</p> <p>(2) ア平成28年度教職員自己評価点を3.8とする。 *教務部を中心に研修を年2回実施。日々の小さな研鑽を積み重ねる。</p>	<p>○創立90周年にあたり、建学の精神・教育理念にもとづく学校教育計画・事業計画を策定した。</p> <p>(1) 90周年の記念行事等で建学の精神や教育理念・教育方針が再確認され、教職員・生徒ともに意識し、学年指導・校務分掌の指導計画において教育方針とのつながりへの効果があったが、さらなる系統性ある策定及び実践を目指していきたい。（自己評価4.0）</p> <p>(2) 年2回の教員研修を実施したが、まだまだ個人の資質向上へとは結びつけられなかった。各教職員の個人研修への参加も含め更なる努力が求められる。（自己評価3.4）</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
【2】 18歳の高校生に求められる学力及び態度・諸能力の基盤養成	(1) 主体的・能動的な学びの実践	(1) ア①基本的な知識・技能の習得のための授業改善を行う（教務部・教科会議を中心に改善） ②思考力・判断力・表現力の養成のための授業改善を行う（教務部・教科会議を中心に改善） イ対話力・課題発見・解決力等を養うための主体的・協働的な授業を行う（教務部・教科会議を中心に改善）	(1) ア①平成28年度生徒評価点を3.7、教職員評価点を4.0とする。 ②平成28年度教職員評価点を3.7とする。 イ平成28年度教職員自己評価点を3.7とする。 *教科担当者の実践と報告により更なる授業改善を図る	○高校生に求められる資質・能力の養成について (1) 主体的・協働的な授業（アクティブラーニング）についての理解と実践は、一部の教員では取り組んではいるものの、学校全体としては十分な取り組みとまではいかなかった。次年度は教員研修を企画し、教員の意識改革を目指したい。（自己評価3.7）
	(2) 集団・社会に貢献できる態度・実行力を養う	(2) ア基本的な生活態度を改善する（生徒指導部・学年の連携で指導） イ活動・行事等を通して社会性を身につける（生徒指導部・学年の連携で指導）	(2) ア平成28年度生徒評価点を3.6、教職員評価点を4.0とする。 イ平成28年度生徒評価点を3.8、教職員評価点を4.0とする。 *生徒指導部・学年の中間報告と課題の更なる指導強化	(2) 生徒指導部と各学年が協力し、きめ細かい指導により規律ある生活態度は浸透しつつあるが、さらなる向上を目指す。（自己評価3.8、生徒評価は3.9）
	(3) 部活動を通じた社会性の獲得	(3) ア自らの心身を鍛える（生徒指導部・部活動顧問で指導） イ部活動を通して社会性を身につける	(3) ア平成28年度教職員自己評価点を4.2とする。 イ平成28年度教職員自己評価点を4.2とする。 *部活動を通じた生徒の育成を生徒指導部・部活動顧問を中心に指導	(3) 部活動を通じた人間形成は成果を修めつつあり、技術・精神力の育成は概ね適切に実施しできている。（自己評価4.0）
	(4) 市民性を育む教育	(4) ア市民性・主権者意識を育む教育を実施する（教務部・地歴公民科・生徒指導部等で指導）	(4) ア平成28年度生徒評価を3.2、教職員自己評価点を3.6とする。 *18歳選挙権を契機に市民・主権者意識の向上と責任ある態度を養う	(4) 社会を見すえた主権者教育の実践は第3学年ではかなり実践できているが、他の学年においては不十分である。次年度は、各学年に相応しい内容で市民性を育成していきたい。（自己評価3.0）
	(5) 国際的資質を育む教育	(5) ア研修・留学生の派遣、受入れを実施する。（国際教育部・英語科で実施）	(5) ア平成28年度教職員自己評価点を4.0とする。	(5) オーストラリアへの1年留学・ホームステイ・イギリス研修など国際教育プログラムは実施でき充実したものとなっている。（自己評価4.4）
【3】 より良く生きていくための人権感覚を養う 人としての在り方生き方を考え、他者と共に	(1) 自己・他者が共に 良く生きようとする態度（人権教育部・生徒指導部・学年で指導）	(1) ア人権問題への適切な理解と態度を身につける学習を実施する イ学級生活や活動を通し仲間と共に調和して生活しようとする態度を養う	(1) ア平成28年度生徒評価点を3.8、教職員評価点を4.0とする。 *学年別にテーマを設定し年間3回実施 イ平成28年度生徒評価点を3.8、教職員評価点を4.0とする。	○健全な人間関係と人権意識について (1) 他者を尊重し協調する態度は概ね身につけているが、目標とした所まであと少し伸ばせていない。（自己評価3.8）
	(2) 一人ひとりのニーズに 応じた指導	(2) ア様々な課題を抱える生徒一人ひとりに丁寧に対応し支援を行う（学年・学級及び関係部署の連携で支援） イ生徒のニーズを把握し教職員が連携して特別支援教育を実施する（特別支援教育委員会を中心に支援）	(2) ア平成28年度生徒評価点を3.5、教職員評価点を4.0とする。 イ平成28年度教職員自己評価点を3.8とする。 *学年・学級・特別支援教育委員会及び関係部署の連携で支援	(2) ア一人ひとりが抱える課題に丁寧に対応することは概ね実施できているが、更なる充実を図りたい。（自己評価4.1） イ 特別支援教育に取り組み始めたが、生徒のニーズに十分応えられるところまではまだ遠い。次年度は更なる推進が必要。（自己評価3.6）

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
【4】 進路目標の実現に向けて未来を切り拓く力を養う キャリア教育を実施する	(1) 未来の目標を実現する能力を養う	(1) ア自分の興味・関心を知り進路目標を考える学習を行う（進路指導部・キャリア教育委員会を中心に指導） イ職業に対する関心・意欲を高める体験的学習を実施する（進路指導部・キャリア教育委員会を中心に指導）	(1) ア平成28年度生徒評価点を3.8、教職員評価点を4.0とする。 イ平成28年度生徒評価点を3.8、教職員評価点を4.0とする。 *進路指導部・キャリア教育委員会を中心に学年別に年間3回以上実施 *キャリア学習を総合学習の時間で学年別に系統的・発展的に実施	○進路指導・キャリア教育について (1) ア 進路学習は概ね充実した取り組みを実施している。(自己評価3.8) イ キャリアガイダンス複数回、進路説明会を1年から実施しているが、個人のニーズをカバーしきれていない。説明会の内容を工夫をする必要がある。(生徒評価3.6、教員評価3.9)
	(2) 生徒の目標を実現させる進路相談や進路支援	(2) ア進路情報を提供し、相談・助言を行う（進路指導部・学年・学級で指導） イ放課後・休業中の講習を実施し、進路指導体制を整備する（進路指導部を中心に指導）	(2) ア平成28年度生徒評価点を3.7、教職員評価点を4.2とする。 イ平成28年度教職員評価点を4.0とする。 *進学講習を夏期・冬期・春期に実施、就職ガイダンスを3年で10回実施	(2) ア 各学年の進路説明会や保護者会で進路情報を提供しているが、個別の丁寧な相談が十分ではない点は改善する必要がある。(自己評価4.1、生徒評価3.6) イ 年間の進路指導計画や模擬試験計画を適切に実施している。進学講習等も計画に沿って実施しているが個々の要望に応え切れていない。(生徒評価3.6 教員評価3.9)
【5】 築くための態度と行動力 安心・安全な社会を	(1) 防災・減災に向けた防災教育・訓練を実施	(1) ア防災・減災に向けた訓練を実施する（生徒指導部・防災教育委員会を中心に指導） イ自然災害に対する科学的理解を深め、防災意識を高める	(1) ア平成28年度教職員評価点4.0とする。 *防災教育委員会を中心に状況に応じた訓練を年2回実施 イ平成28年度生徒評価点を3.7、教職員評価点を4.0とする。	(1) ア 防災訓練・教育を年3回実施した。実際の地震避難も2回行った。(自己評価4.3) イ 他地域・他校の被災事例から学び参考とする意識はやや低い。(自己評価3.8)